

平成31年度 第4回 三原市地域公共交通活性化協議会 会議概要

日 時：令和元年12月4日（水） 10：00～11：30

場 所：三原市役所 3階 304～306 会議室

出席者：出席 19名（欠席 2名）

内 容：

1. 開催あいさつ

2. 協議事項

(1) 第2期三原市地域公共交通網形成計画（素案）について

[事務局から資料1，素案により説明]

[質疑応答]

各委員：目標の設定について、人口減少等の悪条件もある中、現状の水準を維持することも大変であると理解しているが、水準維持が多いのではないかと。利用者数等は現状と乖離したものは現実的ではないが、満足度については、利用者の満足度が上がったり、不満足も若干減ってきたということもあれば、取り組まれたことが評価できるともいえる。実際に第1期中に満足度が上がっているところもあろう。第2期も引き続き同じ方向性を目指す部分もあるかと思う。

また、各年度で何をどこまでやるかを評価するものが定性的なので、定量的な指標、各年度の小さな取り組みも入れられないか。

事務局：内部でも検討していきたい。

各委員：本郷ふれあいタクシーにおいてもお客さんの要望に応じて様々な努力をする体制を取っているが、個々の要望に全て答えるというのは大変であり、人々の利用する行動パターンを整理して先回りした対策を何かできないものかと考えている。通院や買い物であれば「この日を利用してもらうと良い」といったアナウンスができると、まとまった行動を取ってもらえて運営側も最小限で済む。うまく行けば満足度も上がるかもしれない。個人要望の問題もあり、配慮しなければならないが、ただ満足するためだけに対策をとるといっても限界がある。こちらから先回りした対策をとっても良いのではないかと。

会 長：住民のニーズをよく考えた本郷地域であるが、なおかつ先回りした対策が今後あってもよいのでは、というご意見であった。

各委員：2点、確認と質問である。1点目「定期的な評価・検証を行う」について。これはどのような頻度で実施するのか。可能であれば半期に1回は年内の状況を把握して、もしも目標を達成しないという状況が大きくあれば、年内に何かの対策があっても良いのではないかと。

もう1点。実施する事業の1つに「自然災害対応策」があり、BCPの作成等が記載されているが、事業者が実施するという内容なのか、何か市として支援を行っていくような範囲があるのか、詳しく教えてほしい。

事務局：定期的な評価・検証について。これまでも路線バスについては毎年3月頃に1年間の各系統の収支率等を出して評価・検証を行い、基準を下回るものについては見直しをする等を行っていたので引き続き、年に1回実施していきたい。コミュニテ

ィ交通については、年に2回、利用状況等をこの協議会においても報告している。半期ごとに評価・検証を実施していきたい。

自然災害対応策については、各交通事業者に対応していただくことを念頭においている。本市では、災害時の道路状況等の情報提供を素早く伝達できるような体制を作っていければと考えている。

会 長：年々自然災害が増えているが、その対応も今後更に事業者と一緒にという動きになろうかと思う。

それでは第2期三原市地域公共交通網形成計画（素案）について、承認ということによろしいか。

（一同異議無し）

会 長：それでは承認ということによろしく願います。

(2) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）について

[事務局から資料 2-1, 2-2 により説明]

[質疑応答]

会 長：質問・意見が無いようであればこの2件について承認とさせていただきます。

（一同異議無し）

3. その他

三原市定住自立圏形成方針等の策定に向けて

[経営企画課から資料 3-1, 3-2 により説明]

[質疑応答]

各委員：高坂町においては中山間地域活性化事業の5年間の最中である。その中で公共交通、特にバスについて意見をいただくようになった所である。過去に大和町方面から本郷方面へバスを通すことを試行していたが、利用がなく、すぐに中断した。高坂では定住問題にも取り組んで進んでいる。先般の中山間地域活性化事業の説明会で、10年後には人口が減っていくので1人でも2人でも増やす取り組みを、という説明を受けた。地域では、高坂から船木に通じる道路が工事に取り掛かっている。船木に繋がる工業団地、または空港に繋がる。道路だけはだんだん賑やかになっている。しかし、人口は減り、高齢化も進むということが重なっている。小学校も廃校になり、子供と年配者が一緒に行事をするということが少なくなる中で、町内会で祭り事をしてみてはどうかということで、年に3回程大きな祭りを実施している。先日の日曜日に実施したが、町外から約800人が訪れ、「良い所である」といった声もいただいた。こうした活動を通じて、来てもらう、住んでもらうということを望んでいる。

仏通寺の特別臨時バス等は沢山利用されている。しかし本郷の駅に通じるような路線は弱い。1週間で2,3人といったものである。今80歳前後の方が免許を返納したり、車に乗れなくなったといった声を聞くことがあり、本当に困ったときに頼る者がいないと困ることになる。これが高坂町の現状である。よろしく願いたい。

会 長：高坂町の事例を中心にお話いただいたが、高坂町に限らず、三原市全体としてまだ地域交通が十分に連携していないといった問題点がある。地域交通の利用者が少なかったり、またニーズが十分に把握されていないということもあり、なかなか進んでいないというのが現状である。高齢者が増加している中で利便性を考えた交通体系が求め

られる。高齢者に優しいまちづくりが必要になってくるかと思う。

こういった検討の機会を、また経営企画課で考えられているのか。

事務局：次回は3月に共生ビジョンにもう少し具体的な内容を落とし込んで整理した内容を
またご説明させていただく。

会 長：せっかくの機会であるので、地域の課題も含めて出していただければと思う。

4. 閉 会